漢法苞徳塾資料	№. 554
区分	資料
タイトル	**「中有疾・旁取之」をめぐって　『医方集解』細字双行より**
著者	八木素萌
作成日	2000.05.07

『医方集解』の「升陽益胃湯」のところの細字双行に見える。

「清陽失位・則濁陰上干・脾虚不運・而怠惰嗜臥也。体重節痛・湿盛而陰邪勝也。口苦舌乾・陰火上炎也。不嗜食・不知味・胃気虚衰也。大便不調・湿勝也。小便頻数・膀胱有熱也。灑淅悪寒・陽虚也。慘慘不楽・膻中陽気不舒也。経曰・膻中者・臣使之官。喜楽出焉・在両乳中間。」

(清陽位を失っすれば・濁陰上に干(お)かし・脾虚して運ばざれば・怠惰し嗜臥するなり。体重節痛あるは湿の盛にして陰邪の勝さるなり。口苦く舌乾くは・陰火の上に炎えさかるなり。食を嗜まず味を知らざるは胃の気の虚衰なり。大便の不調は・湿勝さるなり。小便の頻数なるは膀胱に熱有るものなり。灑淅と悪寒するは陽気の虚なり。慘々として楽しまざるは・膻中に陽気の舒びやかならざるなり。膻中は臣使の官。喜楽のこれより出ずるなり・両乳の中間なり。)

「霊枢云・頭有疾・取之足・謂陽病取陰也・足有疾・取之上・是陰病取陽也。中有疾・旁取之・中者脾胃也・旁者少陽甲膽也。甲膽風木也・東方春也・胃中穀気者・便是風化也。胃中湿勝而成泄瀉・宜助甲膽風勝以克之・又是升陽助清気上行之法也。」

(霊枢云う・頭に疾(やまい)あれば・之(こ)れを足に取るとは・陽病に陰を取るを謂うなり・足に疾あれば・之れを上に取るとは・是れ陰病に陽を取るものなり・中に疾あれば・旁に之れを取るは・中は脾胃なり・旁とは少陽の甲膽なり・甲膽は風木なり・東方の春なり・胃中の穀気は・便(すなわ)ち是れ風の化なり・胃中の湿勝(まさ)りて泄瀉と成るには・宜しく甲膽を助けて風の勝らしめて以って之れを克するべきなり・又是れ升陽して清気の上行を助けるの法なり)